

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 和光・緑と湧き水の会

27A-07

代表者：代表理事 高橋 絹世

URL : <https://www.wako-wakimizu.org/>

1. 活動が必要とされた状況

和光市は都市化が急伸する中、緑と湧き水のある白子湧水群は、子どもたちが身近な自然に触れられる貴重な自然環境であり環境維持を進めている。昨年、「富澤湧水」の看板が設置でき、車や歩行者からも、きれいな環境との印象を与える効果があった。湧出点に湧き水の仕組みを示す新たな木製看板を設置することで、白子湧水群の重要性が増す。出版した絵本のストーリーは、湧き水の仕組みがわかりやすく、保育園からも求められ、増刷が必要となった。さらに一般にも普及啓発に重要な役割となってきたため、100冊増刷が必要となった。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



(1) 絵本や紙芝居は、現地での観察にも有効活用した。6月にはゆめの木保育園、あすの木保育園年長組が3日、合計30名、富澤湧水で観察会を実施した。

教員研修会およびお茶の水女子大巡検での講義後に紙芝居や絵本を紹介し、利用が進んでいる。教員学生30名。白子小4年生の湧き水観察会では、絵本と紙芝居を事前に活用し、湧き水の地層、湧き出す仕組みの理解が進んでいる。児童80名。

第三小3年生の湧き水授業を依頼され、湧き水の講話と絵本をパワーポイントで紹介し、各クラスで絵本が読み継がれている。児童80名。

公園みどり課の協力でみなみ保育園での紙芝居ができた。40名。下新倉小3年生向けにも湧き水紹介と講義を実施。80名。学童クラブに絵本、紙芝居を届け活用されている。9団体、児童約500名、計840名

(2) 富澤湧水の湧出地点で、ワッキー君木製の看板を設置。「白子湧水群の要」を明示する看板を有効活用している。



3. 活動の成果

絵本の増刷では、初年度限定的であった絵本の活用が、教員研修や学童クラブ、市内3小学校、保育園にも広げることができた。また、公設保育園「みなみ保育園」での活動にも発展した。会員も学校や保育園の活動に参加の会員が増え、読み聞かせの協力が増えた。

看板には白子湧水群の説明パネルのほか、富澤湧水の特徴を示すことができた。2025年3月には、「名栗げんきプラザ」から湧き水と歴史を案内する依頼があり、絵本や紙芝居、看板を活用して、市外からも和光の湧水を知ってもらう活動に広げていきたい。

4. 今後に残された課題

子供たちが湧き水への理解が進むよう、人材を育てていくことが重要である。実際の活動者、特に学校の講話ができる会員が少なく、個人の負担が増えている。機会を通して経験者を増やすように進める。